

臨床実習	小児歯科学
------	-------

[実習] 第5学年 前後期 必修

《担当者名》 教授/齊藤 正人 msaitoh@ 准教授/広瀬 弥奈 minaniwa@ 講師/倉重 圭史 kura@
 助教/大友 麻衣子 tmaiko@ 助教/榊原 さや夏 sayanatu@ 助教/蓑輪 映里佳 minowa@
 助教/加藤 大生 katotaisei@

【概要】

シミュレーション実習では、予防填塞法、フッ化物歯面塗布法、口腔衛生指導を術者と補助の立場で行い、講義と基礎実習で習得した知識・技術の統合を図る。診療参加型実習では、インストラクターの指導のもと積極的に外来診療に携わり、小児歯科診療における定期管理、歯科治療、不協力児に対する歯科的対応などを見学、自験により幅広い知識と技術を習得する。

【学修目標】

人々のライフステージにおける疾患の予防、診断及び治療を実践できるよう、小児歯科における各治療法の基本的知識、技能を修得するとともに歯科保健指導、定期健診の内容と意義を理解する。
 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、豊かな人間性及び優れたコミュニケーション能力を身につけるため、臨床の場における小児の対応法を理解し修得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	シミュレーション実習	PCT systemを用いてフッ化物歯面塗布、予防填塞、保護者への口腔衛生指導を行い基本的知識、技能、態度を修得できる。 (F-3-6- ~)	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 蓑輪 映里佳 加藤 大生
全実習 期間	診療参加型臨床実習	診療参加型実習及びレポート・口頭試問 シミュレーション実習で修得した基本的知識、技能、態度を患者に対してもフッ化物歯面塗布、予防填塞、保護者への口腔衛生指導が実施できる。 (G-3-)	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 蓑輪 映里佳 加藤 大生
	臨床推論 臨床フィードバック講義	小児歯科治療に関する臨床推論ならびに臨床フィードバック講義を行い、高い臨床能力が求められる症例を補完するとともに臨床推論能力を高める。 G-1-1) 、G-2)	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 大友 麻衣子 榊原 さや夏 蓑輪 映里佳 加藤 大生

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用
 授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

臨床実習 で課せられた課題とケース数の総合評価（ミニマムリクワイアメントは別途提示）とする。

【教科書】

「小児歯科学 ベーシックテキスト」永末書店
 「小児歯科学 クリニカルテキスト」永末書店
 「小児歯科学基礎実習ノート」北海道医療大学小児歯科学分野 編
 「小児歯科学基礎・臨床実習」医歯薬出版
 4年時に配布した講義プリント

【学修の準備】

自験、介助、見学を行う症例について、その内容を指導歯科医から事前に確認し、その症例に関わる内容を復習しておくこ

と。(60分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。(専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力)

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。(総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力)

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。(科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢)

DP 4. 多職種(保健、医療、福祉、介護)と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。(多職種連携能力)

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。(社会における医療の役割の理解)

【実務経験】

齊藤 正人(歯科医師)、広瀬 弥奈(歯科医師)、倉重 圭史(歯科医師)、大友 麻衣子(歯科医師)、
榊原 さや夏(歯科医師)、蓑輪 映里佳(歯科医師)、加藤 大生(歯科医師)

【実務経験を活かした教育内容】

小児歯科学とは、小児の口腔機能の正常な発育を図るために、これを障害する異常や口腔疾患の予防と治療を行い、健全な機能をもつ総合的咀嚼器官を育成し、小児の全身の発育と保健に寄与する科目である。多くの実務経験を背景とした診療技術、効率性を提示することで、優れた教育効果が期待できる内容となっている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している